

全国から続々と集まった応募作品と実行委員長でもある岡部理事長(2004年)

Theひと
—日本の技の匠—
「ものづくり日本大賞」
受賞者を訪ねる



山口を日本のミラノにする— デニムファッションコンテスト を通して若手を育成

第2回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞受賞

山口県繊維加工協同組合 理事長 岡部 泰民
おかべ やすたみ

ものづくり日本大賞とは
わが国の産業と文化の発展を支え、国民の生活形成に貢献してきた「ものづくり」を今後も継承していくために、伝統的、文化的、先進的な技をもつ人材をひろく表彰するもので、文部科学省、通商産業省、厚生労働省、国土交通省によって平成17年に創設された。



メ

イド・イン・ジャパンをテーマに、社会人や全国の大学、服飾専門学校、学生などが参加する『ジャパン・ファッションデザインコンテスト in 山口』は、世界最大規模と称されるデニムファッションコンテスト。若いクリエイターの登竜門と言われているこのコンテストは、産地振興と人材の発掘を目的として立ち上げられた。コンテストを主催する山口県繊維加工協同組合は、純日本製デニムの品質の良さを世界にアピールするとともに、人材の発掘から自立まで一貫した人材育成を実践してきた。その活動が評価され、第2回ものづくり日本大賞の青少年支援部門で経済産業大臣賞を受賞した。

コンテスト開催の発端となったのは99年、海外の衣料事情を視察するため、組合理事長であり実行委員長の岡部泰民氏がヨーロッパを訪れた際に見た、スペインの衝撃的な光景だった。「80年代末から、安価な土地と労働力を求めてフランスの



『ジャパン・ファッションデザインコンテスト in 山口』
(左) 第10回大賞作品 (右) 第9回大賞作品

アパレルメーカーが次々とスペインに進出していった。すぐさまスペインはフランスから吸収した技術をベースに独自のファッションを確立し、わずか10年でフランスを凌駕する程に成長していったのです。その頃中国への工場進出が相次いだ日本と中国の明日の姿を見る思いだったという。「加えて、繊維貿易の輸入量制限撤廃が5年後に迫るという重大な局面を迎えていました。中国製品が大量に出回れば、日本の繊維業界も国際競争に突入するのは必至。クオリティや素材が良くて、当時日本製品の輸出シェアはわずか2%、なぜだと考えるうち、今の日本には独自のなクリエイターが足りないかと気づいたのです。そこで誇れるクオリティと素材をもとに日本の伝統文化を活かした独自のデザインを生み出すこと、それが可能な人材育成に尽力しよう、まずは発掘のためにコンテストを、と考えたのです。」

岡部氏はその後、このコンテストを足がかりに、地元のみならず全国の企業から協賛を得て、日本中の最高の素材と技術を集結。そして日本を代表する異分野の職人と若手デザイナーを連携させた協業ブランド『匠山泊』を設立し、素材、技術、デザインが融合した、世界に誇る純日本製デニムの開発と、将来世界に挑戦できる人材発掘・育成システムの構築を実現させた。

目指すのは、最先端のトレンドを発信するミラノ。ここ山口が「日本のミラノ」と呼ばれる日は近いかもしれない。



『第9回ジャパン・ファッションデザインコンテスト in 山口』より



生地はもちろん、糸、ボタン、加工やデザインなど、全てにこだわった匠山泊の製品。



デニム産地「山口」を世界にアピールするため、海外のカジュアル服見本市に匠山泊の純日本製高級ジーンズを出品。

匠山泊
webサイト
<http://syouzanpaku.jp/>



山口県繊維加工協同組合
所在地 山口市宮野下69番地
ブルーウェイPDセンター内
設立 1971年10月
組合員 13社
活動内容 ファッションシンポジウム
ファッションデザインコンテスト
永年勤続者表彰
各種講習会
電話番号 083-925-1241
<http://www.axis.or.jp/~ysk/>